

2.兵庫県南部(北摂地域)の里地里山

2 - 1 . 自然環境

2 - 1 - 1 . 位置・地勢

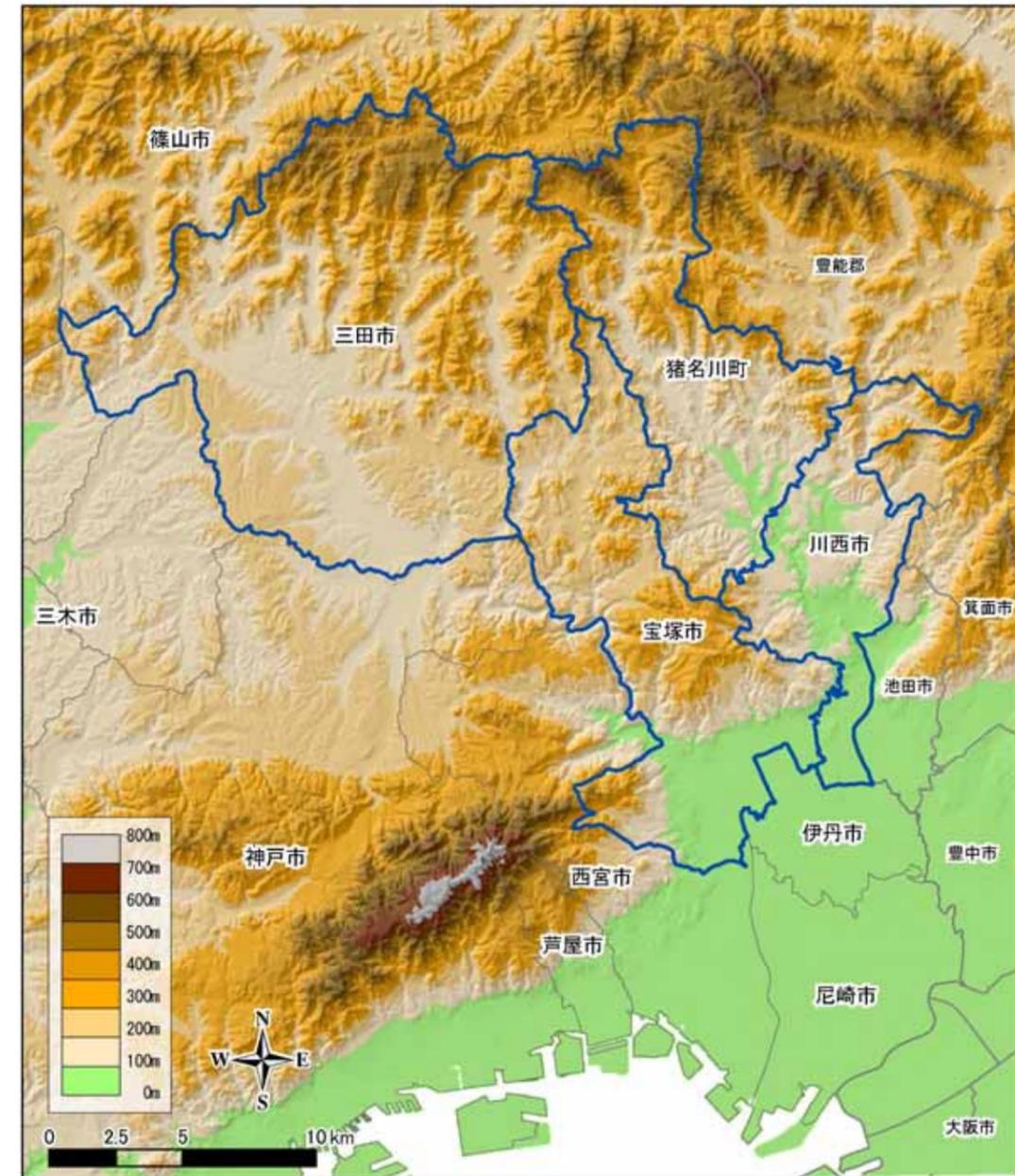
本事業地は兵庫県の南西部、三田市、宝塚市、川辺郡猪名川町、川西市の4市町です。これらは京阪神の市街地からごく近く、20～30kmのエリアに含まれます。



事業地の位置・地勢

2 - 1 - 2 . 標高区分

事業地の市町は、南部の平野部から丘陵地、山地へ連続しており、標高はおおよそ 100m から 600 m の間にあります。



事業地の標高区分

2 - 1 - 3 . 流域区分

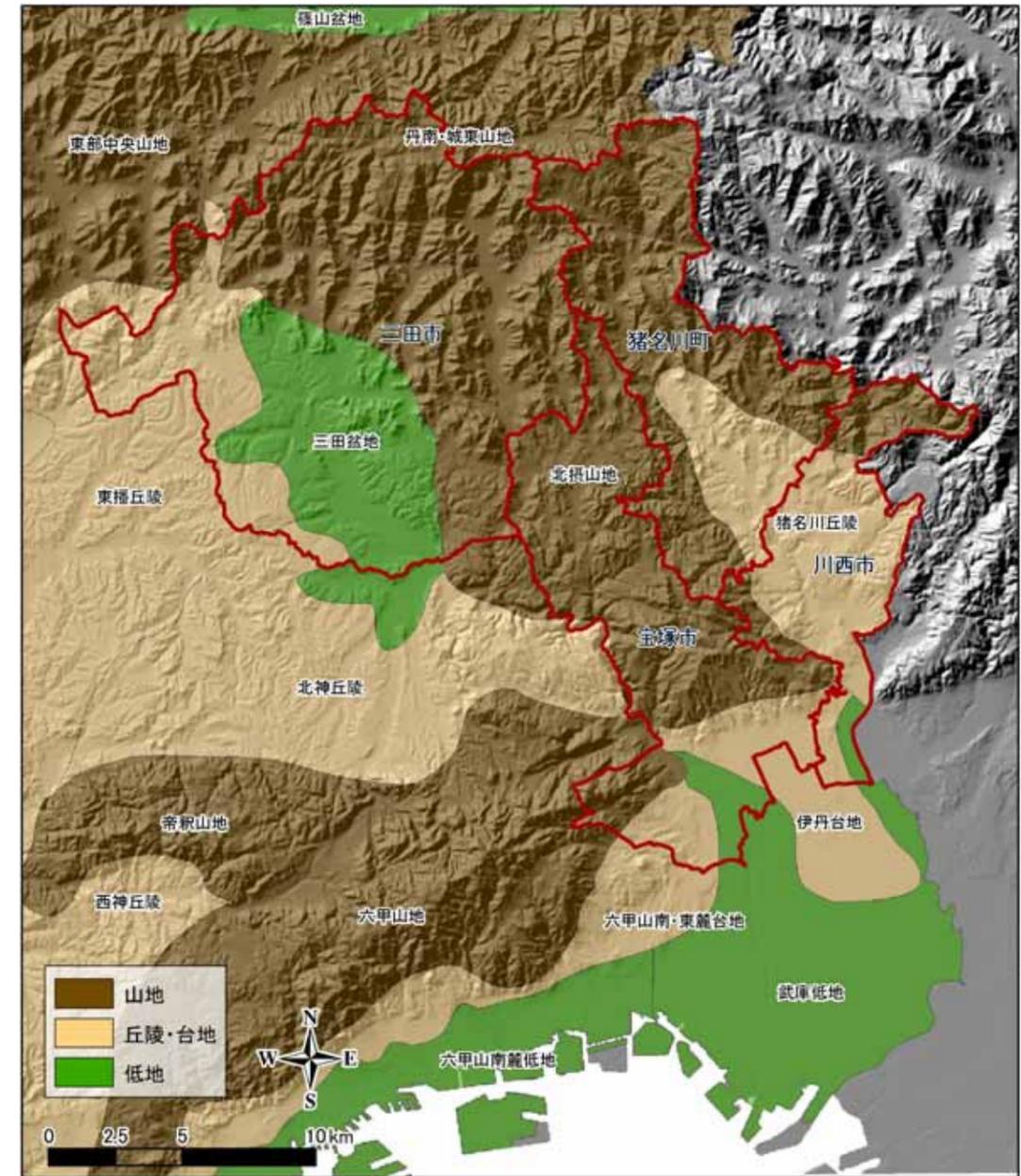
事業地の流域は、東より川西市、猪名川町と宝塚市の一部を含む猪名川水系（猪名川は一級河川）、三田市と宝塚市の一部を含む武庫川水系（武庫川は二級河川）および三田市西部の一部を含む加古川水系（加古川は一級河川）の3水系に区分されます。



事業地の流域区分

2 - 1 - 4 . 地形分類

事業地の地形は、大半が山地に分類されます。主体は北摂山地であり、三田市および猪名川町の北部は一部が丹南・城東山地に分類されます。その他は、猪名川丘陵や伊丹台地といった丘陵地および三田盆地に分類されます。

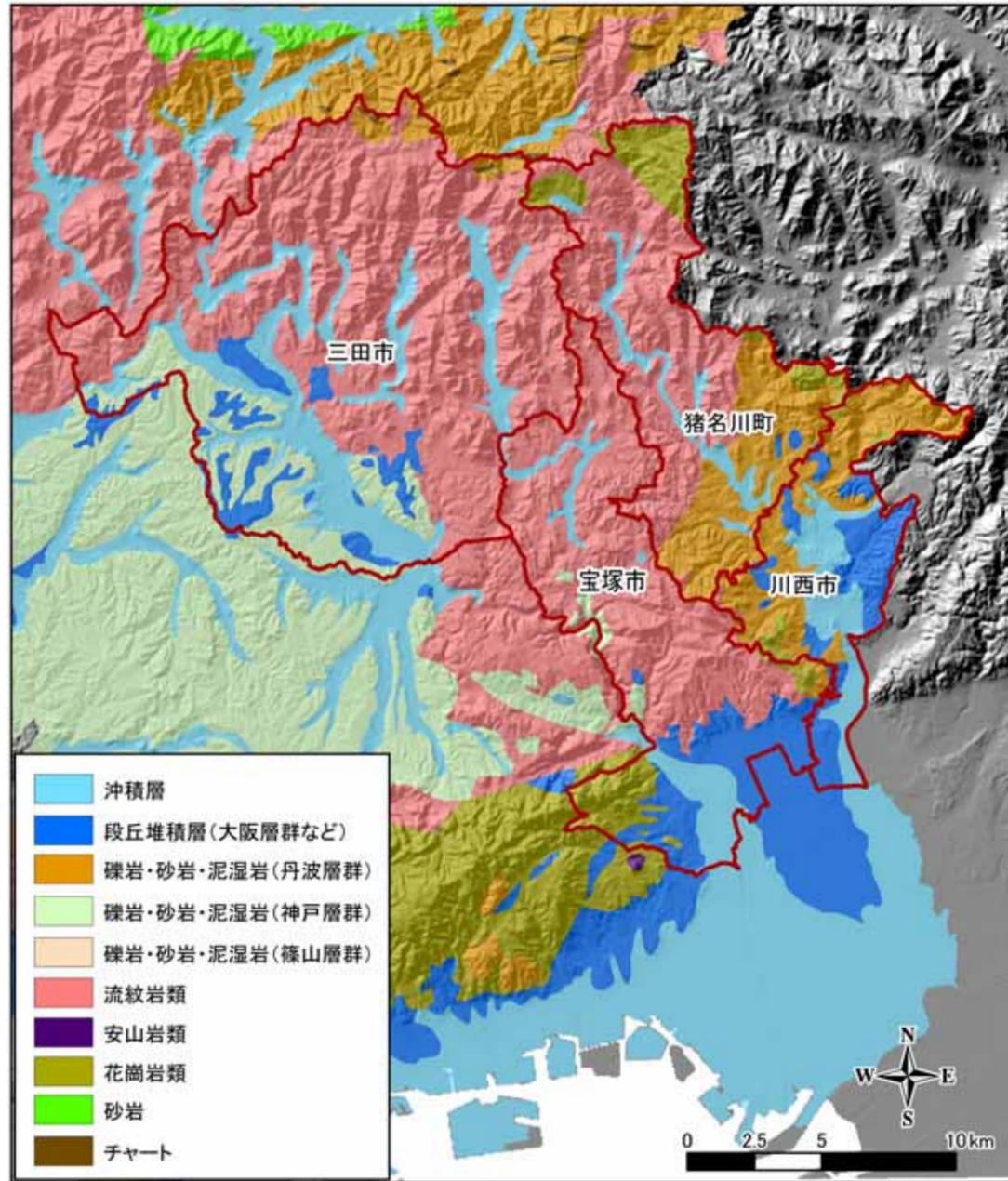


出展：復刻版 土地分類図〔兵庫県〕（財団法人日本地図センター、1991年復刻）

事業地の地形分類

2 - 1 - 5 . 表層地質

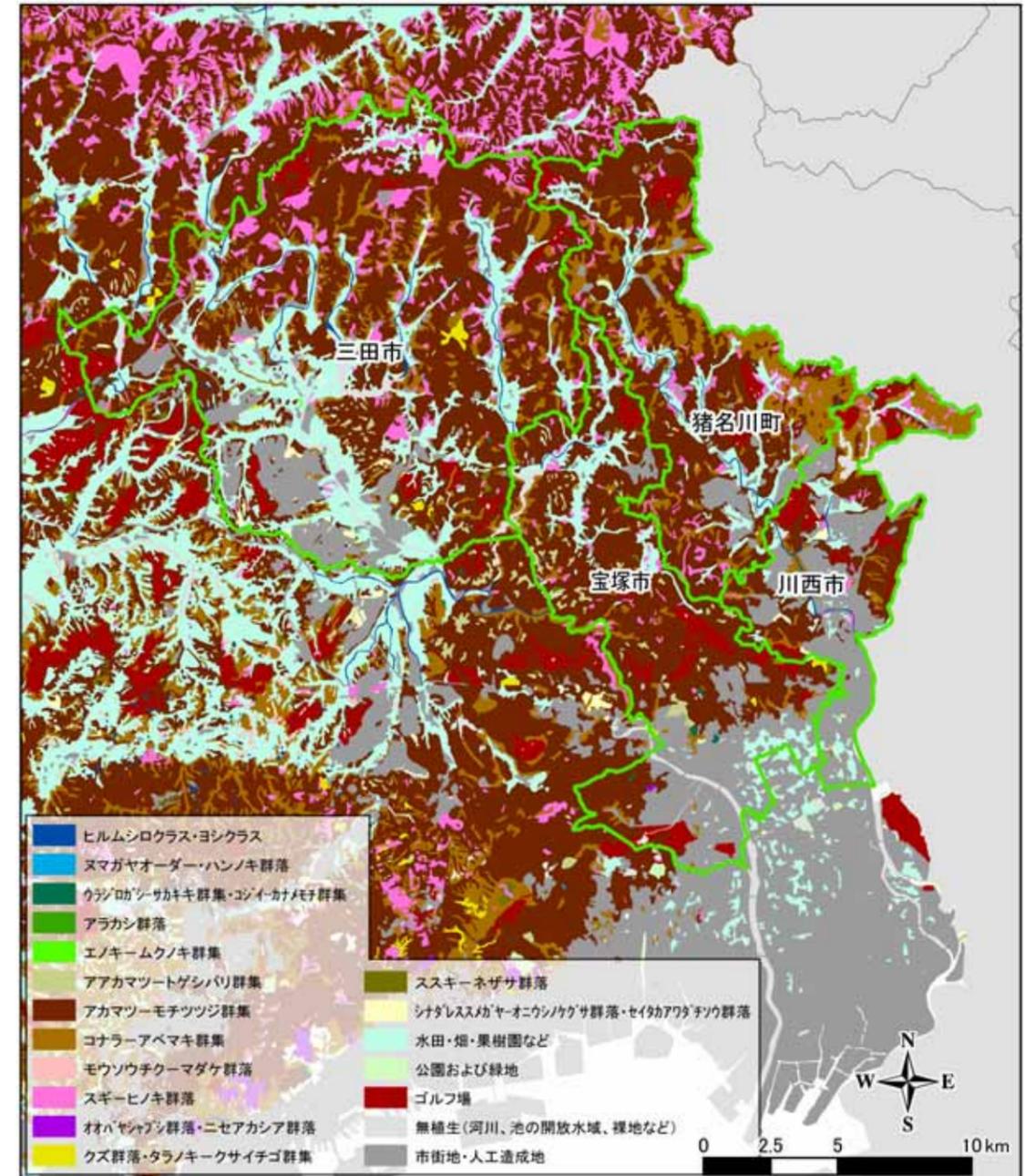
事業地の表層地質の分布は下図のようになっています。事業地の大半を占める山地は、主に火山岩の一種である流紋岩類より成っています。ここでは表層の風化が進みにくく、土壌の発達はよくありません。一方、猪名川町南部、川西市には砂岩、泥岩などの堆積層である丹波層群が分布します。ここでは表層土壌の発達が比較的良好で、水分条件もよくなります。



事業地の表層地質

2 - 1 - 6 . 現存植生

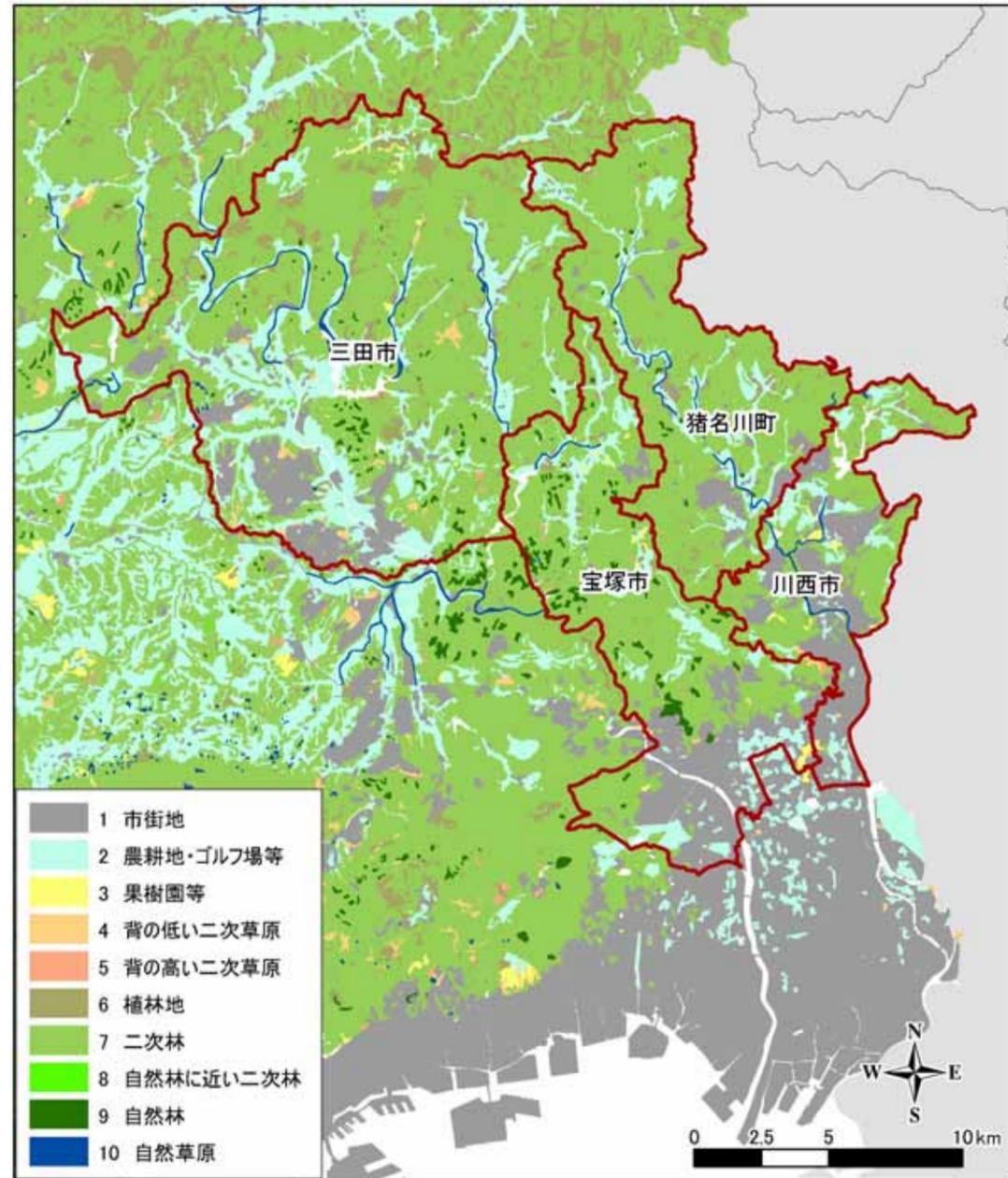
森林域はほとんどがアカマツ - モチツツジ群集が優占し、谷筋などの比較的土壌が発達した場所では、コナラ - アベマキ群集が成立します。一方、表層地質が堆積層の丹波層群である猪名川町南部や川西市では、今でも炭の生産が続けられているクヌギの優占する里山林が成立しています。また平野部はもとより、丘陵地、台地などは宅地として開発されています。



事業地の現存植生

2 - 1 - 7 . 植生自然度

植生自然度とは、人間の開発行為によって自然がどの程度改変されているかを、植生から判断し、10段階に区分したものです。本事業地は、大都市の近郊であり、古くから開発されてきました。そのため、平野部などは市街地、農耕地などと自然度が低くなっています。森林も自然度7の二次林(アカマツ林、コナラ林など)が占めています。自然度が高いのは、社寺林や湿原、河川植生などです。



事業地の現存植生

2 - 1 - 8 . 特徴的な動植物

本事業地を特徴づける植生景観は、主にアカマツ林(アカマツ - モチツツジ群集)であり、比較的土壌が発達した谷筋などには夏緑林のコナラ林(コナラ - アベマキ群集)が成立し、季節感のある景観を提供しています。これらは、西日本における典型的な里山景観であり、身近な生きものを育てている場所でもあります。

林内にはコバノミツバツツジ、モチツツジなどの低木性のツツジ類や、マルバアオダモ、ソヨゴなどの亜高木類が生育し、樹液を吸いに集まるアブラゼミ、ニイニイゼミなどのセミ類、ミヤマクワガタなどの甲虫などが生息しています。また、六甲山系を中心に多くのイノシシが生息していることも特徴的です。



コバノミツバツツジ



モチツツジ



マルバアオダモ



ミヤマクワガタ



アブラゼミ



イノシシ

本事業地を特徴づける自然景観の一つに点在する湿原があげられます。皿池湿原（三田市）丸山湿原（宝塚市）といった兵庫県でも屈指の湿原があり、ハッチョウトンボ、ヒメタイコウチ、サギソウ、トキソウなど多くの貴重な動植物が生息しています。また、川西市、猪名川町には、茶道用道具炭である池田炭の原木林として、現在も残るクヌギ林が成立しています。ここでは「台場」という特殊な仕立て方により、特異な形になった台場クヌギが生育しており、本事業地を特徴づけるものとしてあげられます。このクヌギ林が成立している場所を図7に示しました。

湿原の生物たち



ハッチョウトンボ



ヒメタイコウチ



トキソウ

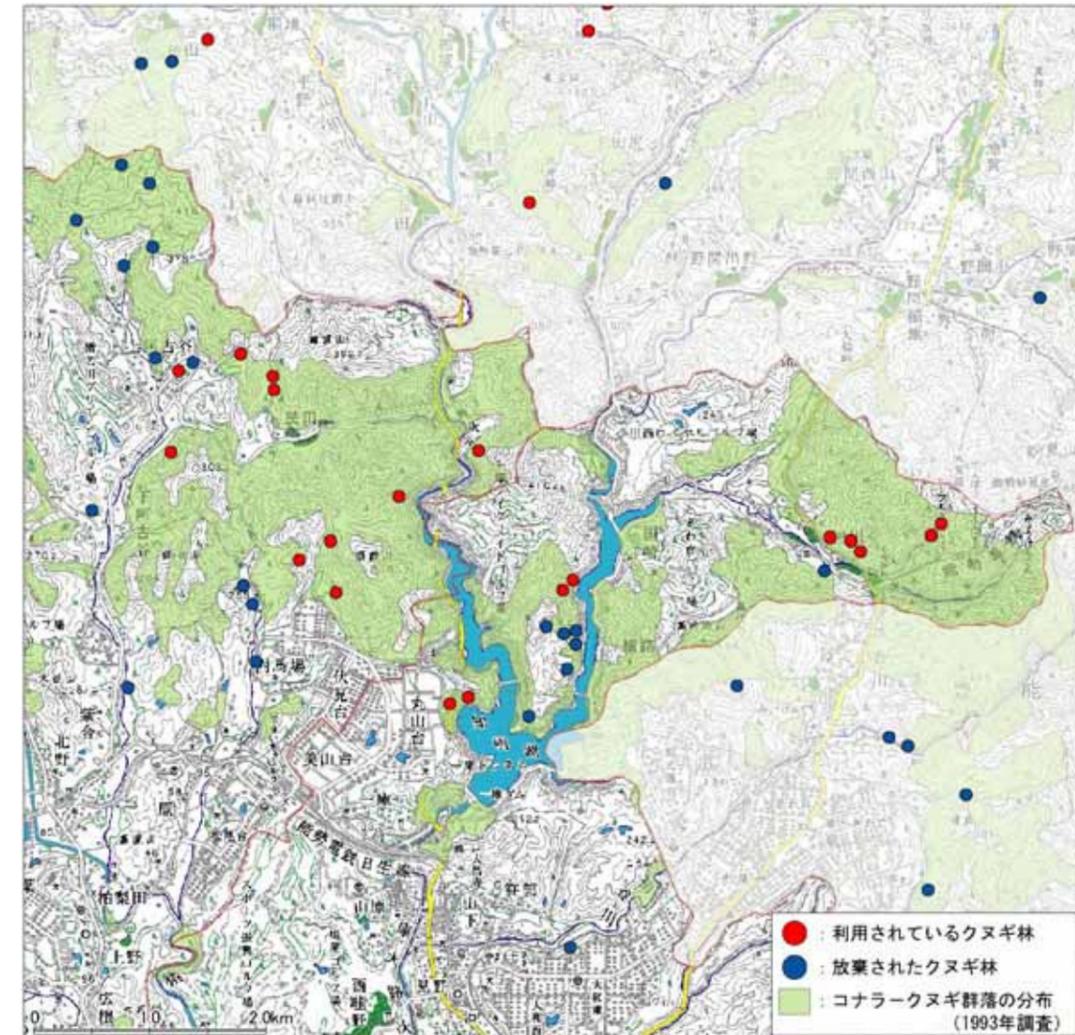
川西市のクヌギ林



台場クヌギ



一庫のクヌギ林



クヌギ林の分布